

高松商工会議所 業種別業界景気動向調査結果

令和4年度 第1四半期（令和4年4月～6月期）調査

概要

1. 調査の目的 四半期ごとに調査を行い、短期的な景気動向を把握する。
2. 調査基準日 令和4年6月1日
3. 調査対象 当所管内の中小企業等より 138社を抽出。
4. 回答企業数 134社（回答率97%）

業種別内訳	製造業	26社	建設業	21社
	卸売業	14社	小売業	36社
	サービス業	27社	その他	10社
規模別内訳	大企業	0社	中小企業	126社
	業界団体	8団体		

*期間表記について

「今 期」：令和4年4月から6月まで

「前年同期」：令和3年4月から6月まで

「前 期」：令和4年1月から3月まで

「来 期」：令和4年7月から9月まで

*D I 値（景気動向指数）について

D I 値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す指数である。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$D I = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

I. 概況（全業種）〈今期（令和4年4月～6月期）の概要〉

景気判断DIは、全業種で改善。

先行き見通しは、改善の兆しが見られるものの、製造業、建設業は厳しい見方が続く。

景気判断DIは、前年同期比で、全業種において改善。

前期比では、3年ぶりの行動制限のないゴールデンウィークで人の流れは回復に向かい、小売業、サービス業において、マイナス幅が大きく縮小。

しかしながら、先行き見通しについては、改善の兆しが見られるものの、中国のゼロコロナ政策によるロックダウン、ウクライナ危機の長期化、原材料・資源価格等の高騰や円安の進行、同業種間での価格競争の激化等により、製造業、建設業においては厳しい見方が続く。

〈産業別の主な動き〉

項目	前年同期比DI			前期比DI			来期(先行)見通しDI		
	比較	DI	判断	比較	DI	判断	比較	DI	判断
景気判断	↑	▲ 17.9	マイナス幅縮小	↑	▲ 17.2	マイナス幅縮小	↑	▲ 14.2	マイナス幅縮小
業況判断	↑	▲ 20.1	マイナス幅縮小	↑	▲ 15.7	マイナス幅縮小	↑	▲ 11.2	マイナス幅縮小
売上高	↑	▲ 8.2	マイナス幅縮小	↑	▲ 12.7	マイナス幅縮小	↑	▲ 6.0	マイナス幅縮小
資金繰り	↑	▲ 14.2	マイナス幅縮小	↑	▲ 13.4	マイナス幅縮小	↓	▲ 11.9	マイナス幅拡大
採算〔経常利益〕	↑	▲ 22.4	マイナス幅縮小	-	-	-	↑	▲ 15.7	マイナス幅縮小
仕入単価	↓	▲ 56.7	マイナス幅拡大	-	-	-	↓	▲ 47.8	マイナス幅拡大
雇用	↑	10.4	プラス幅拡大	-	-	-	↓	7.5	プラス幅縮小
事業資金借入難度	↑	▲ 3.7	マイナス幅縮小	↑	▲ 0.7	マイナス幅縮小	↑	▲ 3.7	マイナス幅縮小
借入金利	↑	1.5	プラス値に転じる	↑	0.7	プラス値に転じる	↓	▲ 4.5	マイナス幅拡大



特徴的なコメントは以下の通り。

判定	↑	↗	→	↘	↓
前期との差	10.0以上	9.9~1.1	1.0~-1.0	-1.1~-9.9	-10.0以上
	改善	←————→			悪化

【製造業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↘	↑	↓	↘	↘	↓	↑	↗

- ・前年より動きが良いと思われる。(船用エンジン部品加工業)

【建設業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↑	↑	↑	↗	↗	↓	→	→

- ・新型コロナウイルス感染症(中国のロックダウン等含む)や、ウクライナ問題、円安、ガソリン価格の上昇などにより材料価格高騰や品不足、未確定納期などが発生している。建築費の上昇により、客先が、予定していた工事を延期するケースも増え、建設業者間の競争が激しくなり、売上高の確保、利益の確保、今後の受注予測が難しくなっている。材料価格の高騰や品不足に備え、関係者と打ち合わせのうえ、可能な材料は受注とともに発注している。(総合工事業)
- ・資材の高騰、納期遅延等の影響が見られる。(給排水工事)

【卸売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↑	↗	↗	↑	↓	↑	↓	→

- ・仕入単価の上昇により、国内販売が少しずつ厳しくなっていることから、海外に活路を見出す必要がある。(中古車販売)

【小売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↑	↑	↗	↑	↓	↗	↘	↗

- ・コロナの影響はまだ残っているが、少しずつ改善されているように思うものの、仕入単価については上昇している。(衣料品販売)
- ・商品・部品不足、モノの価格の高騰で商売がやりにくい。(業界団体)
- ・電子決済手数料により、利益が圧迫されている。(酒類販売)
- ・駐車場売り上げは、コロナ前との比較ではまだ十分に戻っていない。早くコロナ感染が収束してほしい。(商店街)
- ・コロナの影響で売り上げ増が見込めない上に、諸経費の値上げが予定されている状況では先行きの見通しがたたない。いつまで営業できるか不安。(酒類販売)
- ・前年同様、業界は大変厳しいと思う。(衣料品販売)

【サービス業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↑	↑	↑	↑	↘	↓	↗	→

- ・現状のトラック製造業界では、上海ロックダウンなどのコロナの影響が重なり、半導体等部品入庫に大幅な遅れが見られる。その為、車の国内生産が滞り、新車入庫が例年の半分程度と、回復にはまだ来年までか、相当月必要と思われる。(自動車板金)
- ・社員の給与は、雇用調整助成金で賄えているが、社長は給与が出ないので、他の大手企業に臨時雇用の形で会社への収入を保っている。本来の業務が回復し、会社として営業できるよう願っている。(映像企画制作)
- ・持続不可能になってきている。(ホテル業)
- ・打つ手なし。(理容・美容)
- ・旅行業の回復は、宿泊が増加しており、ネット予約が増加したことによる。(旅行業)
- ・物販が、少しずつ改善している。商工会議所の皆様にはお力添えをいただきありがとうございます。(エステティック業)
- ・今年のGWは、3年振りにコロナ規制がなく、人の移動が活発であったが、GW以外では依然厳しい状況が続いている。(簡易宿所)

【その他の業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↑	↑	↑	↑	↗	↓	↑	→

- ・人件費の上昇と材料費高騰により今後利益の減少が進むのではと心配。(貨物運送取扱業)

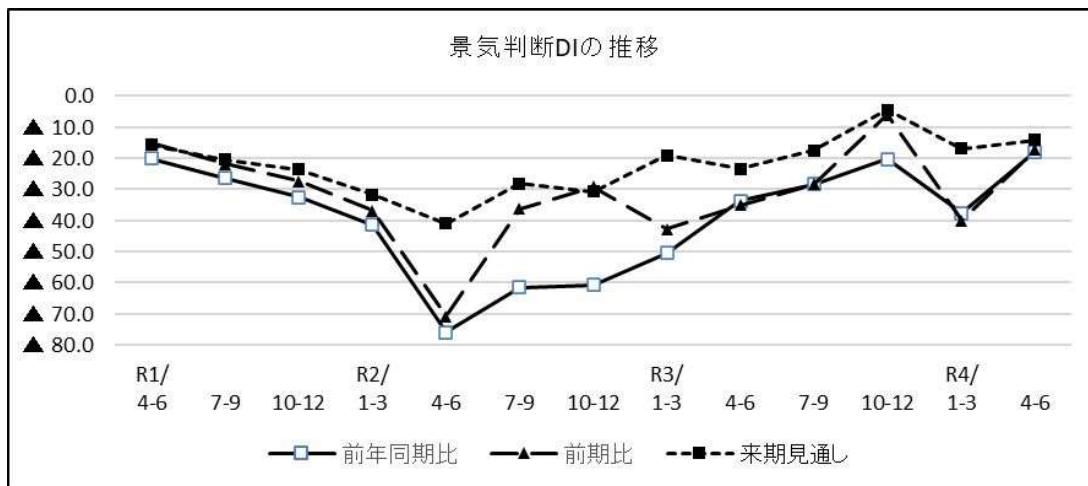
1. 〈管内景気動向〉

景気判断 景気判断DI（「上昇した企業割合」－「下降した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲17.9ポイント。前回調査（▲37.7）より19.8ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲17.2ポイント。前回調査（▲40.0）より22.8ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の景気判断DIは、▲14.2ポイント。前回調査（▲16.9）より2.7ポイントマイナス幅が縮小した。



		R1/4-6	7-9	10-12	R2/1-3	4-6	7-9	10-12	R3/1-3	4-6	7-9	10-12	R4/1-3	4-6
全業種	前年同期比	▲20.1	▲26.3	▲32.4	▲41.4	▲75.9	▲61.5	▲60.8	▲50.4	▲33.6	▲28.3	▲20.3	▲37.7	▲17.9
	前期比	▲15.1	▲21.9	▲27.3	▲36.8	▲70.8	▲36.3	▲29.2	▲42.7	▲35.0	▲28.3	▲6.0	▲40.0	▲17.2
	来期見通し	▲15.8	▲20.4	▲23.7	▲31.6	▲40.9	▲28.1	▲30.8	▲19.1	▲23.4	▲17.4	▲4.5	▲16.9	▲14.2
製造業	前年同期比	▲25.9	▲37.0	▲44.4	▲40.7	▲74.1	▲59.3	▲80.8	▲66.7	▲33.3	▲11.1	▲15.4	▲20.0	▲15.4
	前期比	▲18.5	▲33.3	▲29.6	▲51.9	▲63.0	▲33.3	▲30.8	▲59.3	▲25.9	▲11.1	11.5	▲32.0	▲26.9
	来期見通し	▲22.2	▲25.9	▲33.3	▲29.6	→▲29.6	▲18.5	▲26.9	▲29.6	▲14.8	18.5	▲7.7	▲4.0	▲15.4
建設業	前年同期比	5.0	▲21.1	▲15.0	▲35.0	▲60.0	▲52.4	▲47.4	→▲47.4	▲57.1	▲38.1	▲28.6	▲45.0	▲42.9
	前期比	10.0	▲15.8	▲20.0	▲15.0	▲55.0	▲42.9	▲52.6	▲42.1	▲52.4	▲42.9	▲23.8	▲35.0	▲28.6
	来期見通し	▲10.0	▲31.6	▲25.0	▲30.0	▲65.0	▲42.9	▲47.4	▲31.6	▲57.1	▲33.3	▲28.6	▲35.0	▲42.9
卸売業	前年同期比	▲35.7	▲28.6	▲14.3	▲23.1	▲76.9	→▲28.6	▲28.6	▲71.4	▲21.4	▲35.7	▲15.4	▲28.6	0.0
	前期比	▲28.6	▲14.3	▲21.4	▲15.4	▲69.2	→▲28.6	▲28.6	▲35.7	▲14.3	▲28.6	0.0	▲21.4	▲7.1
	来期見通し	▲35.7	▲14.3	▲35.7	▲61.5	→▲61.5	▲7.1	▲35.7	▲21.4	→▲21.4	▲35.7	15.4	▲14.3	▲7.1
小売業	前年同期比	▲26.3	▲23.7	▲43.2	▲45.7	▲86.8	▲83.8	▲66.7	▲42.9	▲26.3	▲39.5	▲32.4	▲48.6	▲22.2
	前期比	▲21.1	→▲21.1	▲40.5	▲42.9	▲84.2	▲45.9	▲30.6	▲37.1	▲39.5	→▲39.5	▲21.6	▲57.1	▲22.2
	来期見通し	▲15.8	▲23.7	▲21.6	▲25.7	▲34.2	▲29.7	▲25.0	▲17.1	▲10.5	▲31.6	▲2.7	▲22.9	▲13.9
サービス業	前年同期比	▲14.3	▲22.2	▲31.0	▲44.4	▲71.4	▲50.0	▲53.8	▲36.0	▲29.6	▲22.2	▲7.7	▲32.0	▲14.8
	前期比	▲10.7	▲18.5	▲20.7	▲37.0	▲71.4	▲34.6	▲15.4	▲48.0	▲33.3	▲22.2	7.7	▲36.0	▲7.4
	来期見通し	▲7.1	▲7.4	▲13.8	▲33.3	▲46.4	▲42.3	▲23.1	▲16.0	▲33.3	▲14.8	7.7	0.0	→0.0
その他の業	前年同期比	▲25.0	→▲25.0	▲25.0	▲54.5	▲81.8	▲80.0	▲77.8	▲45.5	▲40.0	▲18.2	▲10.0	▲54.5	10.0
	前期比	▲25.0	→▲25.0	▲16.7	▲45.5	▲72.7	▲10.0	▲11.1	▲18.2	▲40.0	▲18.2	0.0	▲45.5	10.0
	来期見通し	▲8.3	▲16.7	→▲16.7	▲18.2	▲9.1	▲10.0	▲44.4	18.2	0.0	▲9.1	▲10.0	▲36.4	▲0.0

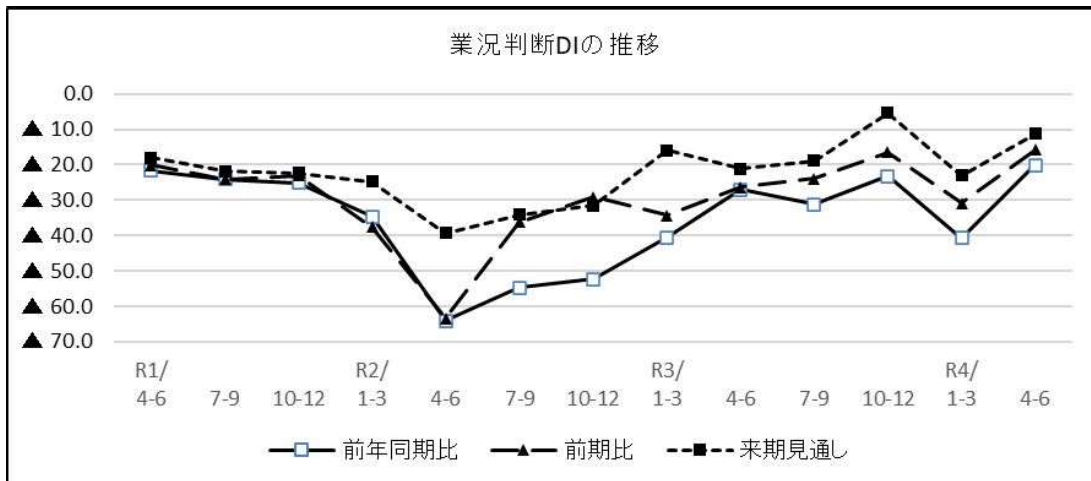
2. 〈企業経営動向〉

(1) 業況判断 業況判断D I (「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数)

前年同期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲20.1ポイント。前回調査(▲40.8)より、20.7ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲15.7ポイント。前回調査(▲30.8)より、15.1ポイントマイナス幅が縮小した。

来期(先行き)見通しによる全業種合計の業況判断D Iは、▲11.2ポイント。前回調査(▲23.1)より、11.9ポイントマイナス幅が縮小した。

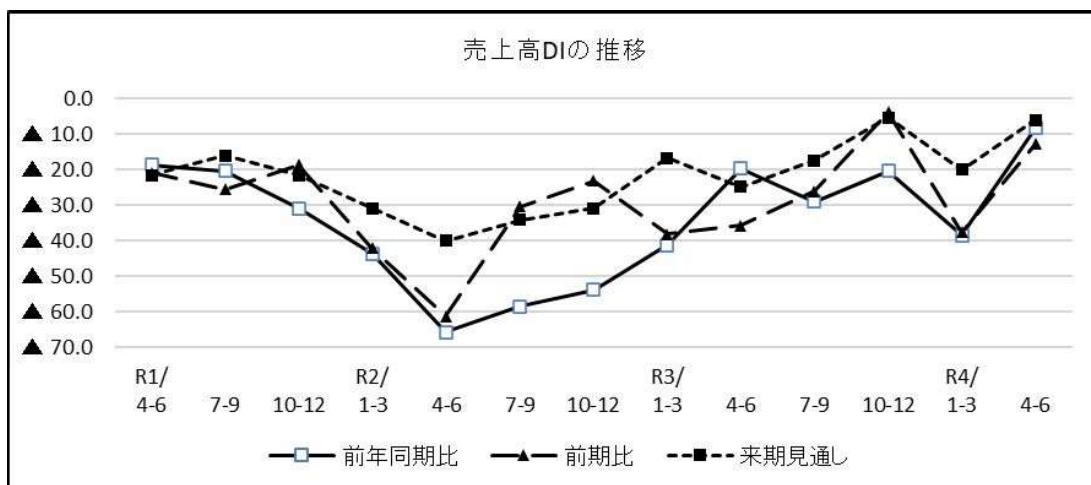


(2) 売上高〔受注額〕 売上高D I (「増加した企業割合」－「減少した企業割合」の指数)

前年同期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲8.2ポイント。前回調査(▲38.5)より、30.3ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲12.7ポイント。前回調査(▲37.7)より、25.0ポイントマイナス幅が縮小した。

来期(先行き)見通しによる全業種合計の売上D Iは、▲6.0ポイント。前回調査(▲20.0)より、14.0ポイントマイナス幅が縮小した。

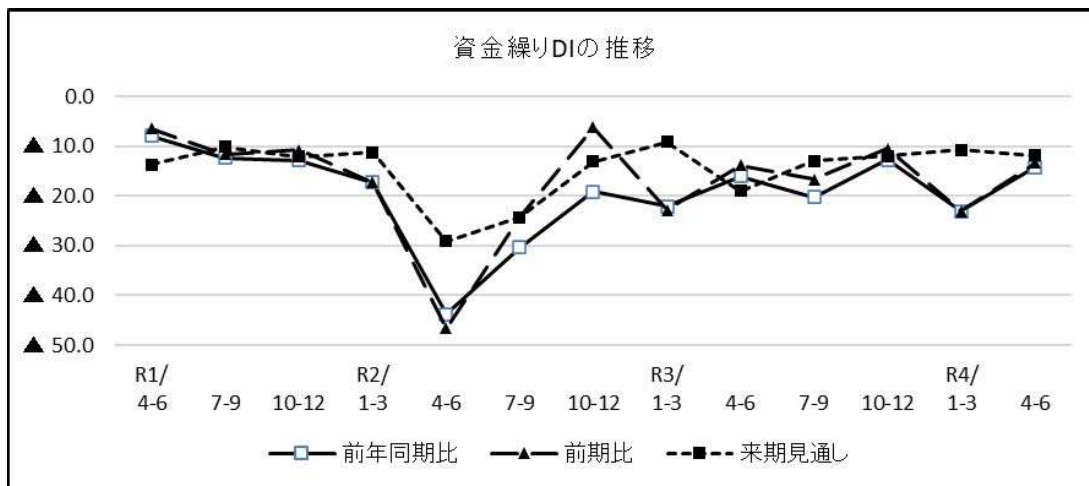


(3) 資金繰り 資金繰りDI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の資金繰りDIは、▲14.2ポイント。前回調査（▲23.1）より8.9ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の資金繰りDIは、▲13.4ポイント。前回調査（▲23.1）より9.7ポイントマイナス幅が縮小した。

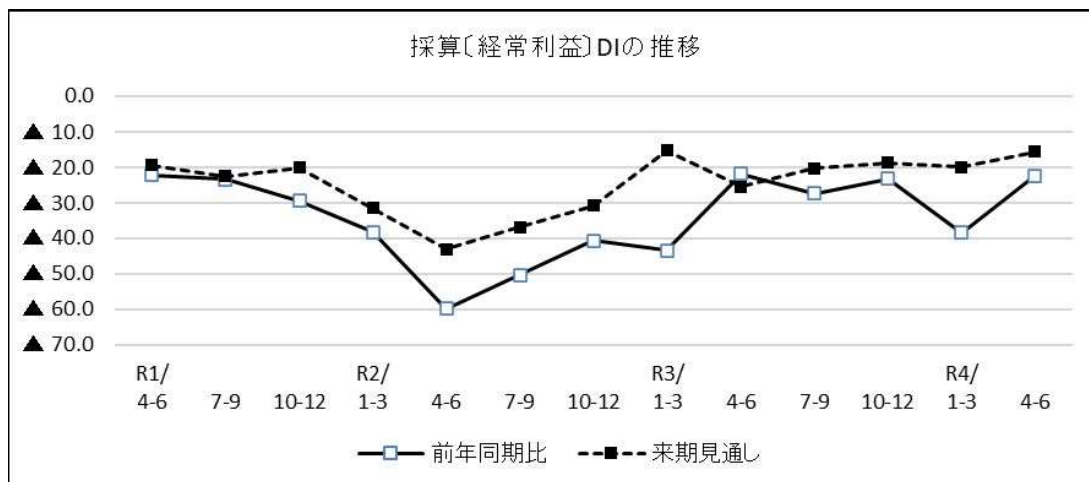
来期（先行き）見通しによる全業種合計の資金繰りDIは▲11.9ポイント。前回調査（▲10.8）より1.1ポイントマイナス幅が拡大した。



(4) 採算〔経常利益〕 採算DI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の採算DIは、▲22.4ポイント。前回調査（▲38.5）より16.1ポイントマイナス幅が縮小した。

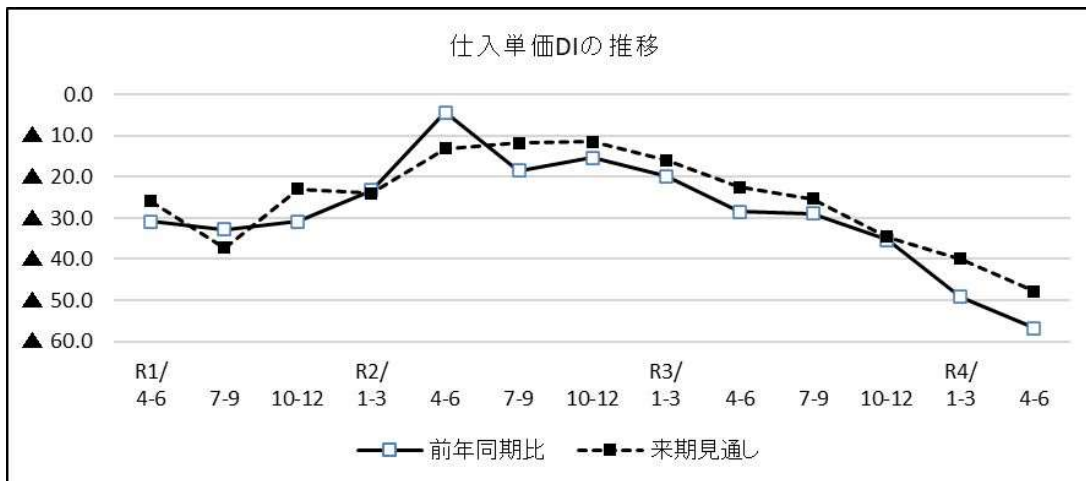
来期（先行き）見通しによる全業種合計の採算DIは、▲15.7ポイント。前回調査（▲20.0）より4.3ポイントマイナス幅が縮小した。



(5) 仕入単価 仕入単価DI（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の仕入単価DIは、▲56.7ポイント。前回調査（▲49.2）より7.5ポイントマイナス幅が拡大した。

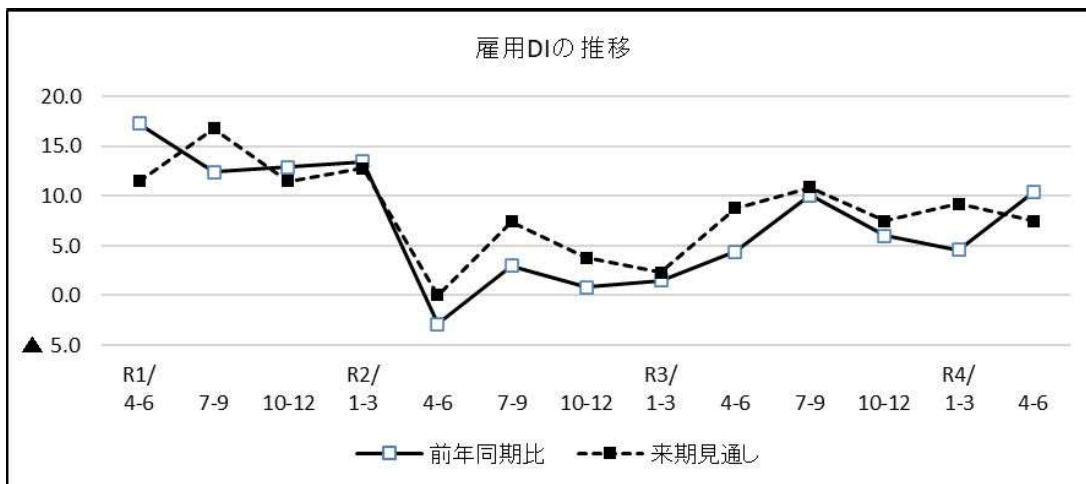
来期（先行き）見通しによる全業種合計の仕入単価DIは、▲47.8ポイント。前回調査（▲40.0）より7.8ポイントマイナス幅が拡大した。



(6) 雇用 雇用DI（「不足気味の企業割合」－「過剰気味の企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の雇用DIは、10.4ポイント。前回調査（4.6）より、5.8ポイントプラス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の雇用DIは、7.5ポイント。前回調査（9.2）より、1.7ポイントプラス幅が縮小した。

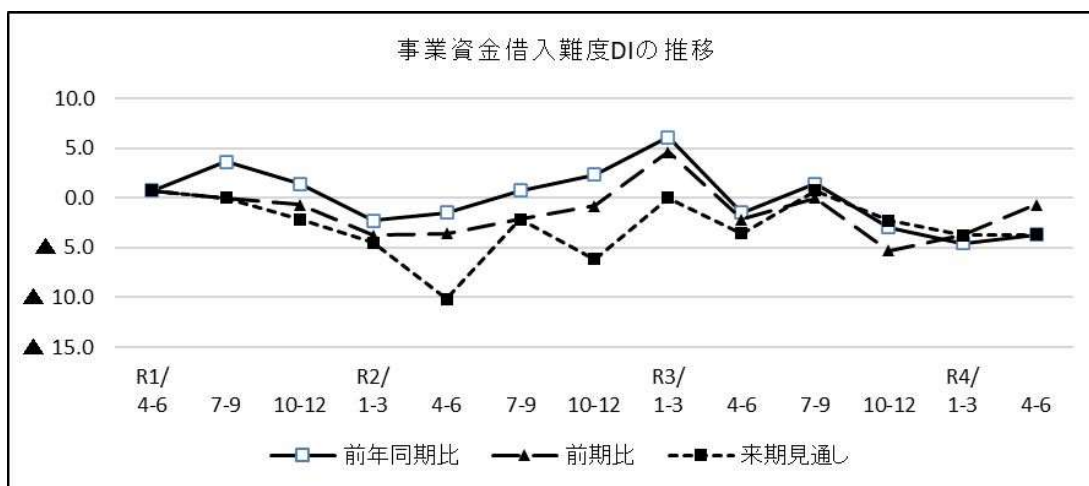


(7) 事業資金借入難度 事業資金借入難度D I（「ゆるやかな企業割合」－「きびしい企業割合」の指数）

前年同期ベースによる全業種合計の事業資金借入難度D Iは、▲3.7ポイント。前回調査（▲4.6）より0.9ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の事業資金借入難度D Iは、▲0.7ポイント。前回調査（▲3.8）より3.1ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計事業資金借入難度D Iは、▲3.7ポイント。前回調査（▲3.8）より0.1ポイントマイナス幅が縮小した。

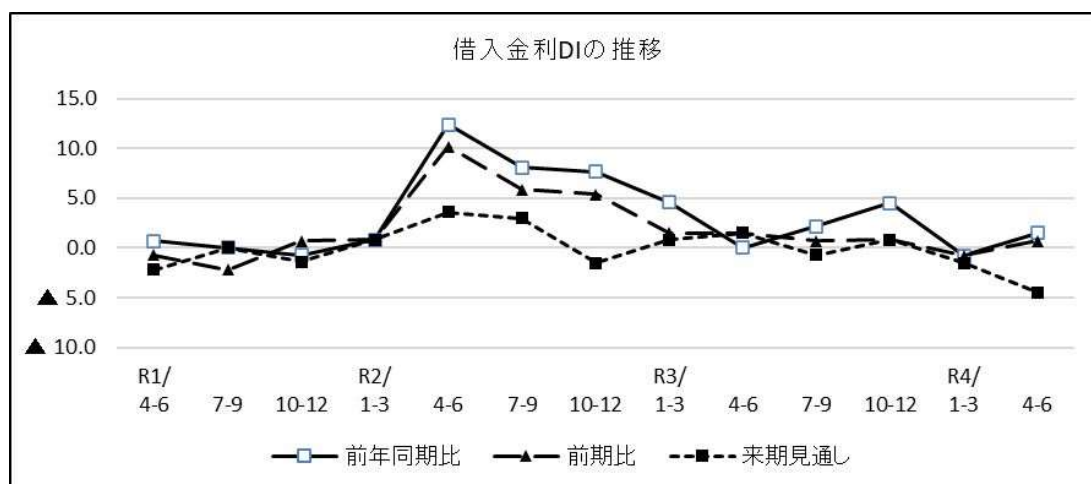


(8) 借入金利 借入金利D I（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の借入金利D Iは、▲1.5ポイント。前回調査（0.8）より2.3ポイントマイナス値に転じた。

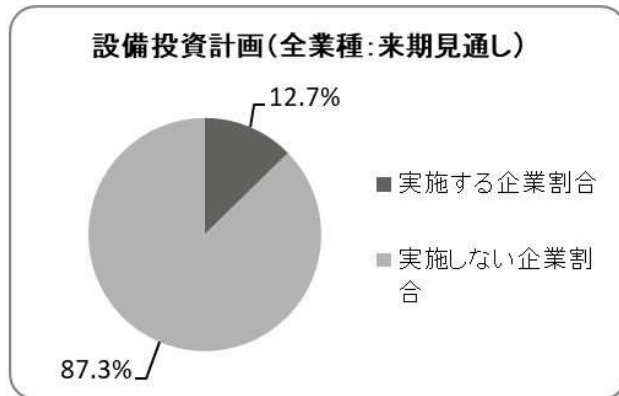
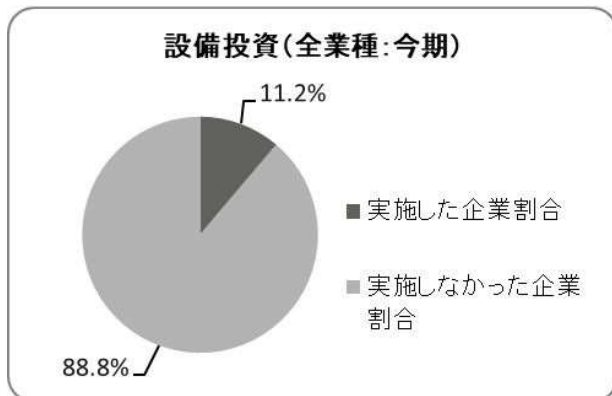
前期比ベースによる全業種合計の借入金利D Iは、▲0.7ポイント。前回調査（0.8）より1.5ポイントマイナス値に転じた。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の借入金利D Iは、▲4.5ポイント。前回調査（1.5）より3.0ポイントマイナス幅が拡大した。



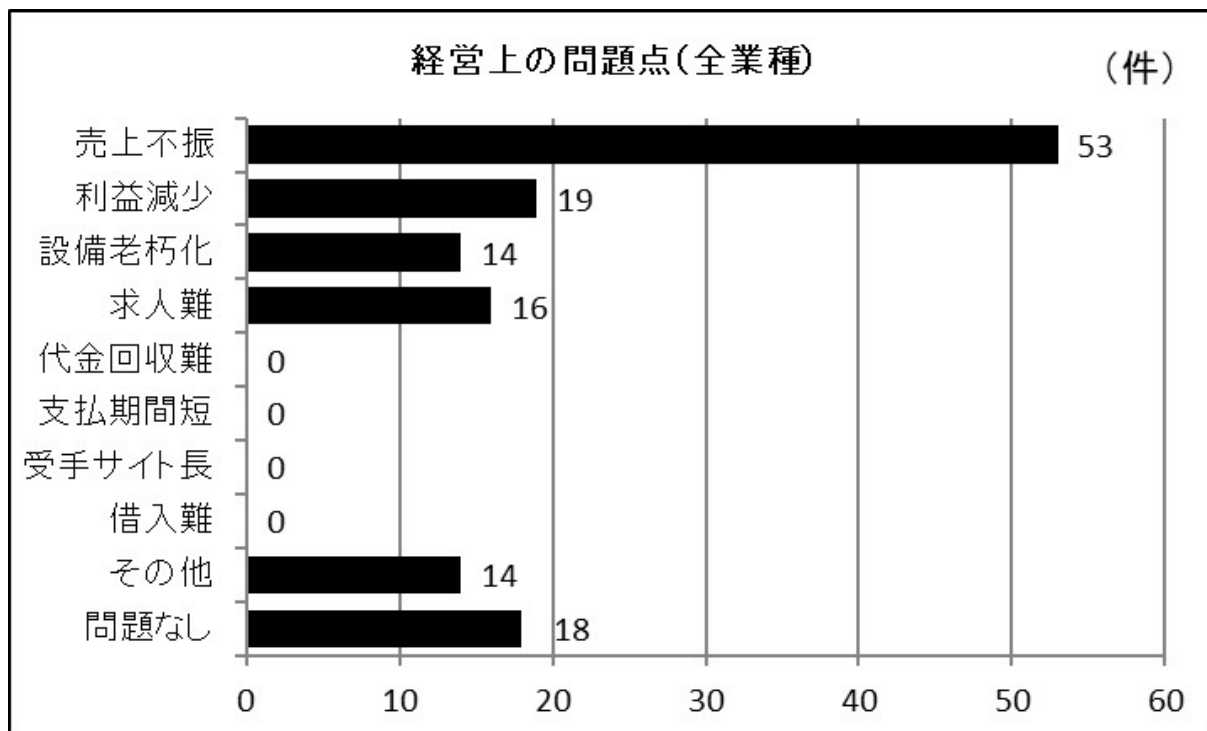
(9) 設備投資

今期設備投資を実施したと回答した企業は11.2%となり、前回調査(11.5%)より0.3%下落した。また、来期設備投資を計画している企業は、12.7%となり、前回調査(13.1%)より0.4%上昇した。



3. <経営上の問題点>

経営上の問題点として、最も多く挙げられているのは「売上不振」で53件、次いで、「問題なし」が22件となっている。



4. 当所管内業種別景況天気図（令和4年1月～3月期）

業種別	景気判断			業況判断			売上高			資金繰り			採算	
	R4		R4	R4		R4	R4		R4	R4		R4	R4	
	4月～6月期		7月 ～ 9月 期	4月～6月期		7月 ～ 9月 期	4月～6月期		7月 ～ 9月 期	4月～6月期		7月 ～ 9月 期	4月～6月期	
前年 同月 比	前期 比	見 通 し	前年 同月 比	前期 比	見 通 し	前年 同月 比	前期 比	見 通 し	前年 同月 比	前期 比	見 通 し	前年 同月 比	見 通 し	
全業種														
製造業														
建設業														
卸売業														
小売業														
サービス業														
その他の業														

凡例					
		特に好転	好転	不変	悪化
DI 値水準	>= +25.0	+24.9～+10.0	+9.9～-9.9	-10.0～-24.9	<= -25.0

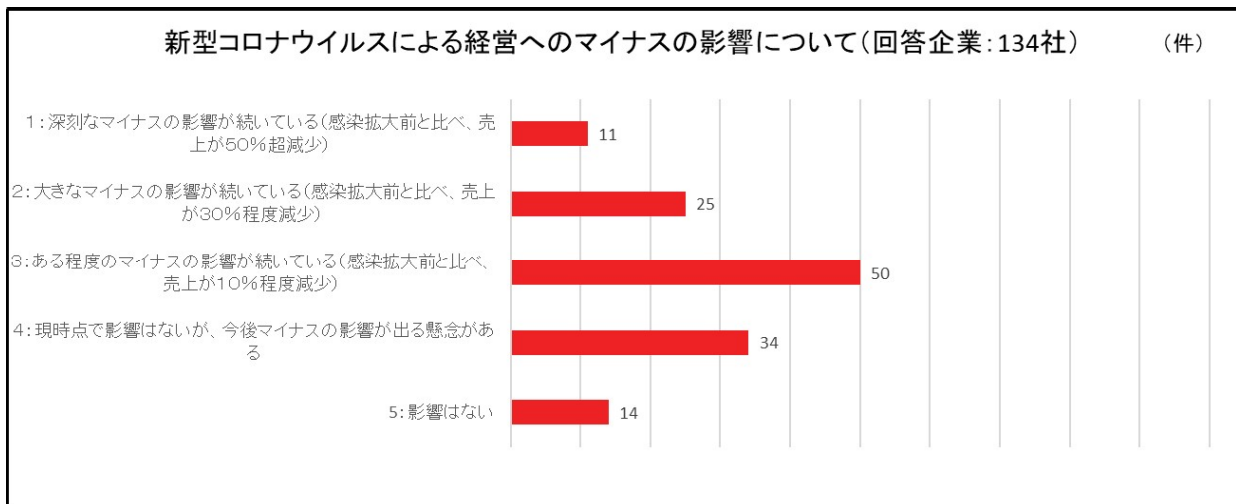
<付帯調査>

新型コロナウイルスの感染拡大に関連して、以下の付帯調査を行った。

(1) 新型コロナウイルスによる経営へのマイナスの影響について

最も回答数が多かったものは、「ある程度のマイナスの影響が続いている（感染拡大前と比べ、売上が10%程度減少）」で50社だった。次いで、「現時点で影響はないが、今後マイナスの影響が出る懸念がある」が34社、「大きなマイナスの影響が続いている（感染拡大前と比べ、売上が30%程度減少）」が25社、「影響はない」が14社、「深刻なマイナスの影響が続いている（感染拡大前と比べ、売上が50%超減少）」が11社であった。

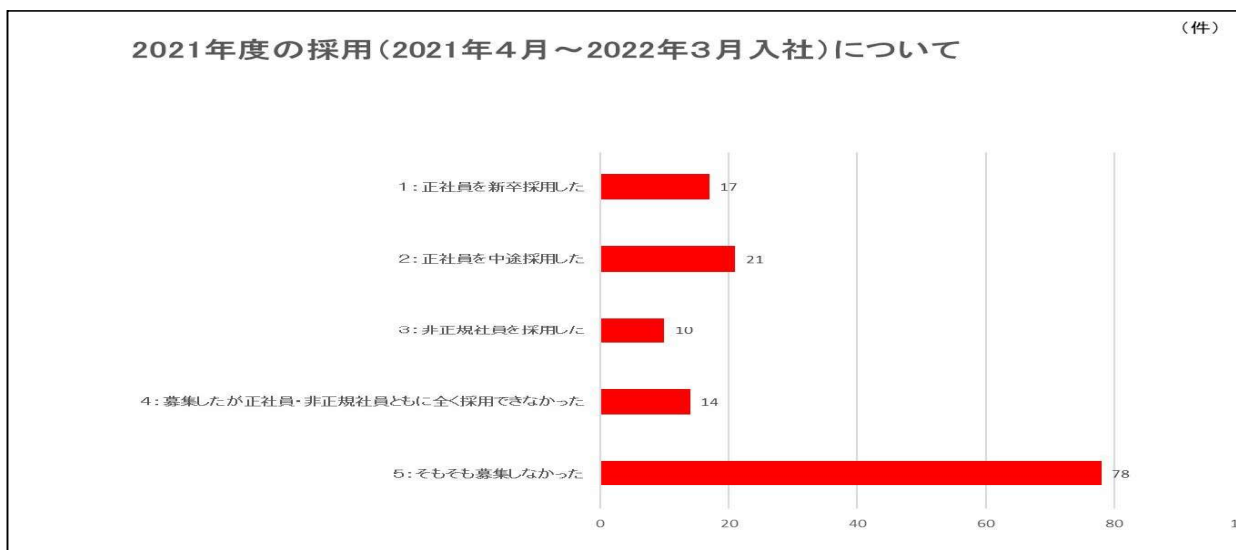
マイナスの影響が出ている、今後出る懸念があると回答したのは全体の90%であり、影響はないと回答したのは10%であった。



(2) 2021年度の採用(2021年4月~2022年3月入社)について

※複数回答可 ※非正規社員とは、契約社員、パート・アルバイト、派遣社員を指す。

最も回答数が多かったものは「そもそも募集しなかった」で78件だった。次いで、「正社員を中途採用した」が21件、「正社員を新卒採用した」が17件、「非正規社員を採用した」が10件、「募集したが正社員・非正規社員ともに全く採用できなかった」が14件であった。



(3) 2021年度の採用における充足状況について

※複数回答可 ※質問(2)で選択肢1～3と選択した場合に回答

回答数が多かったものは、「中途採用の正社員を予定した人数確保できなかった」が11件、次いで「中途採用の正社員を予定した人数確保できなかった」が8件、「新卒採用の正社員を予定した人数確保できた」、「非正規社員を予定した人数確保できた」、「新卒採用の正社員を予定した人数確保できなかった」が7件、「非正規社員を予定した人数確保できなかった」が2件だった。

